

おもしろ国語④⑤ このページは、直接入力できません。

そのまま見るか印刷して使ってください!!

おもしろ国語③で紹介した北原白秋の詩をもう一つ紹介します。今回に限らず、少し昔の言葉遣いが多い作品は、始めは読みにくいかもしれませんが。けれども、この詩をはじめ、日本語は、五音、七音の言葉が多く、次第に、その響きが心地よく感じられます。ぜひ、繰り返し読んでみてください。

一

からまつすの林を過ぎて、
からまつをしみじみと見き。
からまつはさびしかりけり。
たびゆくはさびしかりけり。

二

からまついの林を出でて、
からまついの林に入りぬ。
からまついの林に入りて、
また細く道ほそはつづけり。



三

からまつおくの林の奥も

わが通とおる道はありけり。

霧雨きりさめのかかる道なり。

山風のかよふ道なり。



四

からまつの林の道は、

われのみか、ひともかよひぬ。

ほそぼそと通かよふ道なり。

さびさびといそぐ道なり。

五

からまつの林を過すぎて、

ゆゆえ急えしらず歩みひそめつ。

からまつはさびしかりけり、
からまつとささやきにけり。

六

からまつの林を出でいて、

あさまね

浅間嶺にけぶり立つ見みつ。

浅間嶺にけぶり立つ見つ。

からまつのまたそのうへに。

七

からまつの林の雨は

さびしけどいよよしづけし。

どりな

かんこ鳥鳴けるのみなる。

ぬ

からまつの濡るのみなる。



八

世の中よ、あはれなりけり。

つね常なれどうれしかりけり。

山川に山がはの音、

からまつにからまつのかぜ。

*この詩には、「通る」という字が出てきます。ふりがなが、

「とおる」なのか「とうる」なのか迷うことがありますか。

次のように覚えるといいといわれることがあります。参考に
してみてください。」「とお」と表記する場合を集めています。

とお

とお

こおり

とお

とお

とお

遠くの大きな氷の上を、多くのおおかみ、十ずつ通った。

